

学会との関わり方

三澤 和洋

東海大学大学院 地球環境科学研究科 地球環境科学専攻

この度は、「薫風」への寄稿の機会を頂き誠に有難うございます。

私は現在、東海大学大学院の博士課程の3年生で、平成27年度より室内環境学会と関わり始めました。また、入会してからは毎年、学術大会で研究発表をさせて頂いております。それ以外に、平成29年度より博士課程に進学してからは、指導教員である関根嘉香先生からの勧めもあり化学物質分科会の活動にも参加しております。そこで、私がこれまで学会活動というものをどのように考え、どのように室内環境学会と関わってきたかについて記していきたいと思います。

学会で初めて研究発表をした際には、学会は自分の研究成果を発表する場という気持ちでいました。しかし、色々な場所で発表をして、学会発表に慣れてきてからは単に発表する場というだけではなく、情報交換や交流をすることで研究そのものの内容や意義を深めていく場であると感じました。

平成28年室内環境学会学術大会（佐賀）では学生懇談会の世話人を初めて務めました。研究発表以外の活動を学会で経験してからは、より一層学会は交流の場であり、研究発表以外にも重要な所があるという気持ちが強くなりました。

そして、化学物質分科会の委員となり、学術大会の時以外でも学会の活動に関わる機会があるのだと知りました。分科会では委員の先生方から最新の研究内容についての紹介がありました。そして、それについての質疑や議論、意見交換等が学術大会の場より長時間、より濃密に行われており、圧倒されました。

この他、平成30年度の分科会で企画された高千穂化学工業社町田事業所での工場見学に参加しました。ガスボンベの製造工程やガスの調製工程で注意しなければならない事などを幅広く学ぶことができました。普段の研究で頻繁に使用している商品なのに、日常的な研究活動においてはあまり意識していなかった事を知ることができ、大変勉強になりました。またその後に行われた懇親会では、学生会員にとっては中々同じ卓でお話することができない先生方と親睦を深めることができました。

私にとって分科会で過ごす時間は大変貴重な経験になっていると思います。そして、より沢山の人が分科会などの学会活動に参加して活動の場を広げて頂きたいと思っております。

最後に、室内環境学会の益々の発展を願っております。

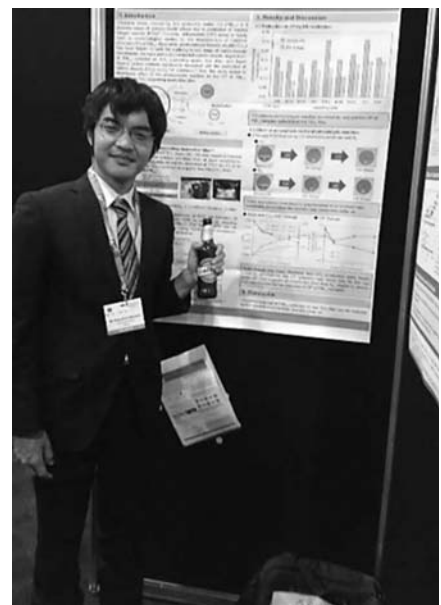


Fig.1 著者の国際学会での発表の様子